

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立相原保育園

発効：平成22年3月26日(平成25年3月25日まで有効)

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	サガ ミラシティ アイソイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立相原保育園
事業所住所 最寄駅	〒229-1101 相模原市相原 4 - 2 1 - 6 JR 横浜線 橋本駅下車 バス15分
事業所電話番号	0 4 2 - 7 7 3 - 2 3 4 1
事業所 FAX 番号	0 4 2 - 7 7 0 - 0 4 5 4
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 野呂 まさよ
法人名及び 法人代表者名	法人名 相模原市 法人代表者氏名 相模原市長 加山 俊夫
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0

事業所の概要 1

開設年月日	昭和52年4月1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	第1種低層住居専用地域
建物構造	鉄筋コンクリート造り 一部2階建て
面積	敷地面積 (1,779) m ² 延床面積 (716) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	46名 (平成22年1月現在)
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤: 1名) 保育士 (常勤: 17名、臨時・非常勤: 18名) 調理員 (常勤: 2名、非常勤: 5名) その他 (庁務作業員 3名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週目～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

意欲と思いやりのある子ども

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

子どもの成長発達について職員間で共通理解をし、個々に合った支援ができるようにしている。保育日誌に子どもの様子を具体的に記載し、当番ノートで子ども一人ひとりの伝達事項が確認できるようにしている。整った生活リズムの中で、子どもの欲求を満ちし、情緒の安定を図っている。

幼児クラスのオープン保育では、園庭遊びや室内遊びで自由に交流している。縦割り保育では、4つの異年齢のグループがあり、年下の子どもに対して思いやりの気持ちを育てるようにしている。乳児も状況に応じて一緒に活動している。幼児クラスのランチルームでは、食事時間に幅をもたせ、子どもたちが自分のペースで食事ができるように工夫している。

幼児クラスの保育室に絵本やブロック等のコーナーを設け、子どもたちが自由に選んで遊んでいる。乳児クラスでは、スライムコーナーや風船コーナーなどの遊びを通して言葉につながるように、保育士が促している。コーナーは子どもたちのその時の興味や様子に合わせて内容を変えている。

当番活動は、4・5歳児が行い、役割分担は子どもたちが話し合いで決めている。グループ名も子どもたちで付けている。その他にもお手伝いの活動があり、子どもたちが自由に参加している。食事に含まれる栄養や身体について考えられるように、「ペタン当番」の子どもが、その日の食材の絵を区分けしてボードに貼っている。

4月から11月には週1回、はだし保育を行い、土の感触を楽しみ開放感を味わっている。月曜日を「ピカピカデー」として園内全体の清掃を行い、火曜日にはだし保育を行っている。固定遊具や跳び箱、縄跳び、マット、平均台、竹馬等の運動遊具を揃え、身体を動かすことの楽しさを味わえるようにしている。

オープン保育の中で園内に音楽を流している。子どもたちは音楽に合わせて自由に身体を動かしている。振り付けも子どもたちが行っている。自由な雰囲気の中で、身体を動かす楽しさを体験できるようにしている。

園内に畑を作り、オクラやラディッシュ、ポップコーン、お米などを栽培している。収穫の様子などを食育コーナーに写真で掲載し、食への興味、関心が持てるようにしている。クッキングの食材としても使用している。公園への散歩では、蝉のぬげがらを観察し、自然の現象に興味を抱いている。

地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、交流保育や保育園行事への参加を呼びかけている。コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、近隣の保育園と合同で育児講座を開催している。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「相原保育園保育マニュアル」に定め、職員会議において話し合いを行い、共通認識をもって保育に取り組んでいる。個別配慮が必要な保護者へは、行事の前に個々に説明している。聴覚に障害がある保護者へは、ファックス等を活用している。</p> <p>相模原市個人情報保護条例が制定されており、職員会議等での周知や園内に個人情報に関するパンフレットを掲示し、職員の意識の徹底をはかっている。保護者には入園説明会等で説明している。個人情報を含む文書類は、「児童持ち出し記録」にて管理している。</p> <p>実習生やボランティア、見学者の受入れにあたっては、受入れマニュアルを整備し、プライバシーの保護について説明するなどして、徹底をはかっている。</p>
---	--------	--

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	家庭との連絡・情報交換は、「相原保育園保育マニュアル」で手段・方法等を定め、連絡帳や「おおきな一れカード」、園だより、クラスだよりのほか、送迎時に保護者が確認できるように、その日の様子や連絡事項をホワイトボードに記載し、一日の保育状況を知らせるなど、連絡を密にしている。 クラス懇談会を年2回実施し、保護者の意見・意向を把握している。個人面談は定期(年1～2回)及び必要に応じて行っている。保育ウィーク、公開保育は保護者に保育園での様子を見てもらう機会としている。 保護者参加の行事の後には、アンケートを実施している。また、保護者が意見や要望等を出しやすいように「ご意見ボックス」を設置し、日頃より保護者の希望や意向の把握に努めている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	苦情への対応はマニュアルや様式を定め、苦情受付担当者及び苦情解決責任者、第三者委員の設置を園内に掲示し、保護者に知らせている。 消毒薬や洗剤等の危険物は、「安全チェックリスト」により保管や管理を行っている。 園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全点検については、「園児健康管理マニュアル」、「安全チェックリスト」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面・安全面の管理に努めている。 インフルエンザ等の感染症の情報は随時、掲示や配布物で保護者へ情報を提供している。 防火・防災・防犯対策については、「相原保育園消防計画」に基づき、役割分担を決めて訓練を実施している。実施後は職員会議等で、係を中心に反省を行っている。安全検討委員会を、月1回開催している。
4	地域との交流・連携	地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、「一緒に遊ぼう」、「地域交流お楽しみデー」等、地域子育て支援事業を多数、行っている。年間を通して園庭を開放し、絵本や紙芝居等の貸し出しも行っている。 コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、育児相談はいつでも受け付けている。近隣の保育園と合同で、「わくわくひろば」や「りんごのほっぺ」等の育児講座を開催している。 地域の様々な人々とのふれあいや世代間交流の機会として、実習生や体験学習の受入れを行い、近くの公園に出掛けて地域の人や老人会と交流している。
5	運営上の透明性の確保と継続性	各行事の終了後には、反省会を行っている。大きな行事については保護者アンケートを実施し、保護者の意見・感想等も参考にしている。年度末には全職員で年間行事や保育内容の反省を行い、次年度につなげている。自己評価の結果として、誕生会に保護者の参観ができるようにしたことなどがあげられる。 保育園の運営や事業内容について、地域からの理解が得られるよう、正面玄関横に地域専用のボードを設置している。園のパンフレットや毎月の催しの配布物も置いている。 保護者に保育園での園児の様子を見てもらう機会として、保育ウィークや公開保育を開催していることを、年間行事予定表等で情報提供している。
6	職員の資質向上促進	保育理念や方針については、入園のしおりや「相原保育園保育マニュアル」に明示し、園内にも掲示している。内容は職員会議で読み合わせを行って周知し、基本姿勢の統一をはかっている。 相模原市保育課による「保育所職員研修計画」に基づき、内外研修を実施・受講している。園内の自主研修は係が中心となり、計画的に行っている。外部研修の内容は職員会議で報告を行い、回覧するとともに自由に閲覧できるようにしている。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 (調査確認事項全 80 事項) を通してのサービスの達成状況	100%
---	------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子どもの成長発達について職員間で共通理解をし、個々に合った支援ができるようにしている。 整った生活リズムの中で、子どもの欲求を満たし、情緒の安定を図っている。 乳児・幼児の話し合いや職員会議で、個々の子どもに対する情報を共有化している。</p>	<p>職員間の共通理解については、保育日誌に子どもの様子を具体的に記載し、当番ノートで子ども一人ひとりの伝達事項が確認できるようにしていることを、保育日誌や当番ノートにて確認した。 保育士の関わり方については、家庭でのリズムに合わせながら、整った生活リズムで過ごせるよう配慮していること、食事時間にも配慮し、保護者と日々の遣り取りをしていることを、保育室やランチルームの様子などで確認した。 情報の共有化については、職員会議や乳幼児の話し合いを定期的に関催し、記録を回覧していることを、職員会議録や乳幼児の話し合い記録にて確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>職員間で発達の違いを理解し、職員が手本となり子ども同士が個の違いを理解し思いやりの意識が育っていくようにしている。 異年齢での関わりの中で、思いやりの気持ちを育てる様にしている。 子ども同士の声かけや話し合いを促し仲間の存在や思いを認めた関わりができるようにしている。</p>	<p>保育士の関わり方については、障害のある子どもに対して、保育士が自然な関わりをし、保育士の関わり方を子どもたちに示すことで、個の違いや思いやりの気持ちを育てるようにしていることを、保育室での様子や保育日誌にて確認した。 オープン保育では、園庭遊びや室内遊びで自由に交流していること、縦割り保育では、4つの異年齢のグループがあり、年下の子どもに対して思いやりの気持ちを育てるようにしていること、乳児も状況に応じて一緒に活動していることを、オープン保育の様子や保育日誌などで確認した。 保育士の関わり方については、保育士が道筋を作り、話し合いの機会を促していること、話し合いの中で、興味を持っていないことにも興味を持てるように働きかけていることを、園庭や保育室の様子、保育日誌などで確認した。</p>
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>当番活動を通して、認められたり、感謝される事で人の役にたつ事に喜びを感じられるようにしている。 散歩や行事等を通じて地域の人たちと接する機会を作り、人と関わる事の楽しさや大切さを感じられるようにしている。 身近な環境に興味を持ち、ごみの分別や物を大切にする気持ちを育てている。</p>	<p>当番活動は、4・5歳児が行い、役割分担は子どもたちが話し合いで真剣に決めていること、グループ名も子どもたちで付けていること、その他にも手伝いの活動があり、子どもたちが自由に参加していることを、ランチルームでの当番の様子などで確認した。 園外活動については、0～2歳児が地域交流行事に参加したり、近くの公園に出掛け、地域の人や老人会と交流していることを、行事予定表や写真などで確認した。 子どもたちの関わりについては、市からの派遣で「資源ジャー」が訪れ、ゴミの分別の話を聞いていること、ゴミの分別は、子どもたちが家庭に持ち帰り、家でできた時に「おおきなきになったよ」のシートにシールを貼っていることを、保育日誌などで確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子どもの動作や表情から気持ちを汲み取り、保育士が言葉に変えて表現し、言葉のやり取りの楽しさを経験できるようにしている。 子ども同士の言葉のやり取りの中で、つながりを感じ、心地よい関わりがもてるようにしている。 言葉のやりとりが楽しめるように、保育の工夫をしている。</p>	<p>保育士の関わり方については、乳児クラスでは、スライムコーナーや風船コーナーなどの遊びを通して言葉につながるように、保育士が促していることを、園庭や保育室の様子などで確認した。 子ども同士のやり取りでは、子どもによっては、言い方が強く相手に伝わらないことがあり、保育士が具体的に表現を変えて教えて、関わりがもてるようにしていることを、保育日誌などで確認した。 言葉のやり取りの工夫として、誕生会では、子どもたちがインタビューをしたり、発表をして、言葉のやり取りが楽しめるようにしていることを、保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>遊びの中で子どもの表情や動作を言葉に変えて、保育士が表現する事で伝える喜びを経験できるようにしている。 生活の中から自分の経験や思いを言葉で伝えあったり、話し合いの中で解決する方法を知らせるようにしている。 園の絵本のコーナーや各クラスに絵本コーナーを設置し、子ども自身が自分で好きな絵本を選んで読めるようにしている。</p>	<p>保育士の関わり方として、0歳児の誕生会参加では、保育士が言葉や指差して何をしているのか教え、表情や動作から気持ちを汲み取って、「うれしいね、楽しいね」と簡単な言葉で伝えていることを、指導計画や保育日誌にて確認した。 子どもたちの活動として、はだし保育を行い、土の感触を楽しみ、言葉に表していること、昨年度、畑のプロッコリーが鳥に食べられてしまい、今年はどうしたらよいか、子どもたちが皆で話し合いを行い、対策を立てていることを、園庭の畑の様子や保育日誌にて確認した。 コーナーの設置では、絵本コーナーを設け、好きな絵本をいつでも読めるようにしていること、月2回、年長児が素話のボランティアグループの「お話し会」に参加していることを、絵本コーナーや保育日誌、写真にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>遊びの中で個々の表現を引き出す関わりをし、表現する楽しさを味わえるようにしている。 自由な雰囲気の中で、子どもの興味に合わせた音楽や体操・遊戯を継続的に、提供している。 季節や子どもの興味に合わせた製作を提供し、身近で安全な素材を使う事で表現したい気持ちを育んでいる。</p>	<p>表現の楽しさは、乳児クラスでは、風呂敷やシーツ、バスタオルを使った遊びを行い、子どもたち個々の表現を引き出す工夫をしていることを、保育室の様子や保育日誌などにて確認した。 音楽・体操・遊戯では、オープン保育の中で、音楽に合わせて体操やフォークダンスを行っていること、振り付けも子どもたちが行っていることを、園庭や保育室の様子、保育日誌などにて確認した。 製作については、こいのぼり製作やまつぼっくりの飾り、年賀状、雛人形、鬼のお面など、季節や子どもの興味に合わせた製作を行っていることを、保育室内の製作品や保育日誌などにて確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子ども達の興味・関心に合わせた色々な遊びを提供し、個々に合わせて遊びを充分楽しめるようにしている。 年長児を対象に月2回ボランティアによるお話し会を実施する中で物語に親しみを持ち、イメージを持って表現する楽しさを体験できるようにしている。 オープン保育の中で異年齢同志で見本にしたり教えあう経験をし、一緒に表現する楽しさを味わえるようにしている。</p>	<p>廃材を利用した遊びでは、牛乳パックなどの空き箱や廃材を自由に選んで行っていること、曲に合わせて体操をしたり、鉄棒で遊んだり、充分楽しめるようにしていることを、園庭や保育室の様子、保育日誌などにて確認した。 「お話し会」の本は、本のコーナーに置き、家庭にも貸し出しをして、物語に親しみが持てるようにしていることを、保育日誌や写真にて確認した。 異年齢交流では、上の子が下の子にいろいろなことを教えていること、下の子も、上の子が作っているものを自分でも作りたいという意欲につながっていることを、園庭や保育室の様子などで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>保育士が子どもと一緒に音楽を聞いたり、音楽に合わせて身体を動かしたり、興味を引き出すようにしている。 年齢に応じた内容の絵本・パネルシアター・紙芝居を提供し、身近な物への興味を引き出すようにしている。 遊びの中で運動遊具を提供し、身体を動かす事の楽しさを味わえるようにしている。</p>	<p>音楽を使った遊びでは、0歳児のクラスでは、保育士が先頭に立って、音楽に合わせて踊り、子どもたちの興味を引き出すようにしていることを、保育室の様子や保育日誌にて確認した。 シアターは一日の活動の切れ目に合わせて行うことが多いこと、エプロン、パネルシアターの生地、指人形、スケッチブック、うちわ、帽子などを使って行っていることを、保育室の様子や保育日誌、写真にて確認した。 運動遊具については、固定遊具や跳び箱、縄跳び、マット、平均台、はしご、ぼっくり、竹馬などの運動遊具を揃えていること、乳児クラスでも、三輪車や豆自動車、ビニールトンネルなどを揃えていること、月曜日の「ピカピカデー」で園内を清掃し、火曜日には、はだし保育を行っていることを、園庭や保育室の様子、保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>異年齢児との関わりの中で探索活動を楽しみ、小動物に興味を持てるように働きかけている。 植物の種を植えたり、栽培を子どもと一緒にやる事で自然や植物に興味を持てるようにしている。 散歩の中で園周辺の探索を行い、自然事象に興味を持てるようにしている。またその感動を異年齢の関わりの中で伝えられるようにしている。</p>	<p>小動物の飼育では、ザリガニやメダカ、かぶと虫を飼育し、畑ではミミズを観察するなど、小動物に興味を持てるようにしていることを、保育日誌などで確認した。 植物の栽培については、園庭の畑で野菜を栽培し、食材として使用し、自然や植物に興味を持てるようにしていることを、園庭の畑や保育日誌などにて確認した。 園外活動については、公園への散歩で見つけた蝉のぬけがらを観察し、蝉の成長の様子をもっと知ろうと公園に出掛け、地面の穴を観察したりしていることを、保育日誌や写真にて確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>空腹を感じた時に、食事ができるようにランチルームを設け、楽しい雰囲気の中で食べようとする意欲を育むようにしている。 野菜の栽培を行っている(ふるさと生活指導士)の話しを聞いたり、実際に野菜に触れる事で、食材や調理に興味を持ち、食べようとする意欲を育てている。 子どもがトイレに興味を持つような環境を整え、排泄をしようとする意欲を育てている。</p>	<p>幼児クラスのランチルームでは、食事時間に幅をもたせ、楽しい雰囲気の中で食事を摂ることができるようにしていることを、ランチルームの様子や保育日誌にて確認した。 年に1回、市に登録した「ふるさと生活指導士」が訪れ、野菜の話聞き、食材や調理に興味を持てるようにしていること、また、収穫した野菜を輪切りにして、野菜のお腹を観察したりしていること、食育ボードにも掲示していることを、食育コーナーの様子や保育日誌、写真にて確認した。 トイレへの取り組みでは、0、1、2歳児のトイレには、アンパンマンの絵を貼り、3歳以上児のトイレは明るくして、トイレに行きたくなるような環境を設定していることを、トイレの様子や保育日誌、写真などで確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>生活習慣を身につけられる様に、家庭と情報交換をしている。また、子どもたちが使いやすい環境設定をしている。 生活の中で休養が大事であることを伝えている。 食事に含まれる栄養や身体について考えられるように働きかけている。</p>	<p>生活習慣が身につけられるように、0、1歳児は「連絡帳」にて、日々、保護者と情報交換をしていること、2歳児には「おおきくなあれ」で月に1回連絡し、3歳児以上は、ホワイトボードや「園だより」、「クラスだより」で伝えていることを、ホワイトボードや「連絡帳」、「クラスだより」などにて確認した。 休養の大切さについては、年長児も午睡をし、休養が大事なことを伝えていることを、午睡の様子や保育日誌などで確認した。 食事に含まれる栄養や身体について考えられるように、「ペッタン当番」の子どもが、その日の食材の絵を区分けしてボードに貼っていることを、ランチルームの様子や「こんだてひょう」などで確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>.はだし保育を行い、足裏からの、いろいろな感触を味わったり、開放感を感じて遊べるようにしている。 オープン保育の中で、好きな遊びを自分で選択して十分に楽しむとともに、生活の見通しを持って活動できるようにしている。 散歩で自然に触れたり、植物の栽培や、小動物の飼育を通して生命の大切さに気付く、豊かな心が育つようにしている。</p>	<p>はだし保育については、4月から11月に週1回、はだし保育を行い、開放感を味わっていること、月曜日の「ピカピカデー」で清掃を行い、火曜日に、はだし保育を行っていることを、保育日誌、写真などにて確認した。 保育室に絵本やブロックなどのコーナーを設け、子どもたちが自由に選んで遊んでいること、コーナーは、子どもたちのその時の興味や様子に合わせて内容を変えていることを、コーナーの様子などで確認した。 植物の栽培や小動物の飼育については、近くの公園に散歩に出かけて自然に触れ、ザリガニやメダカを飼育して生命の大切さに気付くようにしていることを、植物の栽培や小動物の飼育の様子、写真などで確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>異年齢の関わりを大切にしながら、少人数でゆったり過ごせる長時間保育を行っている。 他機関と連携を取り、個別的配慮をしながら、発達に合わせて統合保育を行っている。 少人数でゆったりと過ごせる環境を大切に乳児保育を行っている。 日々の会話が難しい保護者に対して行事や保育内容の連絡を密にしている。</p>	<p>延長保育については、19時までの延長保育は、黄組の保育室を使用し、20人程が利用していること、延長保育用のおもちゃを用意し、ゆったりと過ごせるようにしていること、牛乳とクッキー、ゼリーなどを提供していることを、保育日誌や写真にて確認した。 2人の個別配慮が必要な子どもに対しては、保育士が常に見守りながら関わっていること、発達の状況に合わせて、遊ぶクラスに配慮して関わっていることを、保育室の様子や保育日誌、写真などで確認した。 乳児保育については、0、1歳児は、家庭的な雰囲気大切に、ゆったりと過ごせるように保育していることを、保育室の様子や保育日誌にて確認した。 コミュニケーションに配慮が必要な保護者に対しては、メモを渡したり、ファックスを利用したりして、個別に対応していることを、連絡帳やファックスのコピーなどで確認した。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>アレルギー児に対し、アレルギー対応マニュアルに基づきアレルギー対応食を行っている。 個々の発達に合わせて、家庭と相談し、離乳食を進めている。 体調不良児は連絡帳等で体調を把握し、活動や食事の個別配慮をしている。</p>	<p>2名のアレルギー対応が必要な子どもに対しては、アレルギー対応食を提供していることを、保育日誌や除去食申請書、写真にて確認した。 離乳食については、家庭での状況がわからないため、サンプルを見せたり、「献立表」を渡して、保護者と相談しながら進めていることを、食事の様子や離乳食献立表、写真などで確認した。 体調不良児への対応では、下痢気味との連絡があれば、牛乳をやめて麦茶にすること、米飯をおかゆにすること、油分、繊維分の多い食品を除くなどで対応していること<おやつなどのせんべい、クッキーを、あかちゃんせんべいにするなどで対応していること>を、連絡帳や保育日誌などにて確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>野菜の栽培を通して、野菜や食への興味・関心を持てるようにしている。 キッキングを通して、食材や調理について興味を持たせ、食に対する意欲を育てている。 ランチルームを設定し、落ち着いた雰囲気の中で、空腹を感じて食事ができるようにしている。</p>	<p>野菜や食への取り組みでは、オクラ、ラディッシュ、ポップコーン、お米などを栽培し、収穫の様子などを食育コーナーに写真で掲示し、食への興味、関心が持てるようにしていることを、食育コーナーや食育指導計画、保育日誌、写真にて確認した。 食に対する意欲の取り組みでは、食育計画に基づき、キッキングを定期的に行っていること、毎週月曜日には、野菜の皮むきなども行っていることを、食育指導計画やキッキング計画表、写真などで確認した。 幼児クラスのランチルームでは、食事時間に幅をもたせ、セルフサービス形式で、落ち着いた環境で食事をしていることを、ランチルームの様子や保育日誌、写真などで確認した。</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>連絡帳を利用し家庭と園で情報交換を行っている。 おおきなあれカードを利用し子どもの成長を確認し合い、ホワイトボードやクラスだよりを通して日々の子どもの様子を伝えている。 年1回又は必要に応じて担任と個人面談を行っている。懇談会は年2回実施し保護者同士や園と家庭とのコミュニケーションの場としている。</p>	<p>家庭との情報交換については、乳児クラスでは、「連絡帳」により、家庭との情報交換を行っていることを、「連絡帳」にて確認した。 日々の子どもの様子については、「おおきなあれ」カードや「クラスだより」、またホワイトボードにより、日々の子どもの様子を伝えていることを、ホワイトボードや「おおきなあれ」、保育日誌などにて確認した。 家庭とのコミュニケーションでは、個人面談を定期及び必要に応じて行っていること、懇談会は給食の試食会を兼ねて実施していること、各クラス、10人前後の参加があったことを、「個人面談のお知らせ」や「懇談会についてのお知らせ」、「クラスだより」にて確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>全職員で地域子育て支援の対応を行い、地域事業を通して育児の参考にしてもらったりする中で保護者の育児不安を解消できるようにしている。おたのしみデーで給食調理員、地域保健師等により年4回のミニ講座を開催している。 コミュニティ保育グループと園児との交流を持ち、活動の参考にしてもらっている。 近隣の公私3園(星の子、二本松、相原)また、公立4園(相模原、大沢、相原、中野)が協力して、年齢別の育児講座を共催で4企画を各地区で年2~3回ずつ実施している。</p>	<p>地域子育て支援として、園庭は、月~土、地域の親子に開放していること、地域の子育て支援は地域担当だけでなく、全職員で対応していること、給食調理員や地域の保健師も関わっていること、橋本こどもセンターでの「ふれあい親子サロン」では、100組を超える親子の参加があったことを、「地域担当年間予定表」や写真などで確認した。 コミュニティ保育グループへの支援では、4つのコミュニティ保育グループと園児との交流を定期的に行っていることを、「地域子育て支援事業等報告書」やチラシ、写真にて確認した。 地域子育て支援として、「わくわくひろば」や「りんごのほっぺ」、「おれんじきつず」、「親と子のふれあい広場」などの育児講座を、近隣の保育園と合同で実施していることを、「地域子育て支援事業等報告書」やチラシ、写真にて確認した。</p>